



あめりかの憂鬱
南海部覚悟

NCH Software

山陽自動車道、奥屋パーキングエリア上空である。

緩やかにカーブして尾道・福山方面に伸びる高速道路の先が、乳白の春霞に沈んでいる。

パーキングエリアの周りに、深い山塊が蒼々と折り重なって続き、鉄道ファンであれば“瀬野八越え”という有名な難所に察しが付く。

秋山修平は、例によってエアロバイクによるパトロール任務に就いていた。

広島県警交通機動隊へ着任して3か月がたつ。

着任早々、エアロバイクの専任担当を言い渡された。

京都天ヶ瀬ダムでの活躍が評価されたようだ、高所が苦手の秋山とすれば、内心多少不本意だった。

眼下をゆっくりとしたペースで、黒いミニバンが駆け抜けてゆく。

背後から白のセダンが追い縋る、苛立ったようにパッシングを浴びせて距離を詰める。

追い越し車線が空いたのを合図に、ミニバンの前に出て蛇行を始めた。

典型的なあおり運転だ。

秋山がスロットルを開いて2台を追跡し始めた直後、速度を落として路肩に停止した。

派手なシャツを着た小男がセダンから降りてくる、ミニバンの運転席ドアに取り付いた

直後、4人が降りてきてシャツの男を取り囲んだ、全員地味なスーツにサングラスだ。

中の一人がシャツの男の胸倉を掴む、左手の指先を高く翳しながら、何か大声で怒鳴っている。

シャツの男がズボンの尻のポケットから、財布を取り出しておどおど金を渡す、サングラスの男が指につまんだ小さな何かを、シャツの男の胸のポケットに突っ込んで車に戻る。

ほかの3人もミニバンに戻り、セダンをかわして走り去った。

“あおり潰し”だ。

あおり運転を常習する車のナンバーは、ネット上に匿名で公開されている。

そして多くの場合、常習犯は恵まれた裕福な身の上で、社会上の地位に甘えてあおり運転を繰り返す。

起こしたトラブルを、金の力で握りつぶす自信があるからかもしれない。

“あおり潰し”はそういった車を標的にする。

標的の車を見つけると、前に出てしつこく低速走行を続ける、或いは追い抜きざまに長いクラクションを鳴らす、そうやって挑発する。

運転者以外は、シートを倒して寝そべり、身を隠している。

標的車があおり運転を始めると、複数のドライブレコーダーやアクションカメラで録画

する。

車を止め、勇んで運転席に詰め寄るのを、同乗した全員で取り囲んで恐喝し、或るものを売りつける。

マイクロSDカードだ。

あおり運転は今の時代重罪である、地位のある運転者にはにべもなく、財布の有り金はたいて買い取ることになる。

直前の映像記録だとは一切言わないし、実際は全く関係のない映像だから、後になって恐喝を立証するのはほとんど不可能だ。

道路上で行った正当な商取引だと反論できる。

もちろん、実際のドライブレコーダーの映像は、対抗証拠として保管しておく。

あおり運転者には悪いが、警察としても立件が難しいから取り合わない、目の前で恐喝されても、見て見ぬふりだ。

眼下の路肩には、呆然と立ちすくむ哀れなあおり運転者が一人残されていた。



エアロバイクの無線がNHKラジオのニュースを拾っている。

3日前に噴火したアメリカの火山の続報だ、周囲10Km範囲に避難指示が出された、降灰で現地は大混乱のようだ。

航空会社は空路の変更を余儀なくされ、火山雷の電磁サージで通信障害も発生している。

そういえば、着任早々鳥取の大山で小規模な噴火があり、鳥取県警からの要請を受けて、火山学者を乗せて上空を飛んだことがある。

1万7千年も休止している火山の噴火だけに、当時大きなニュースになった。

全固体リチウム電池を搭載するエアロバイクは、噴煙中を飛行しても機材に支障をきたすことは無かった、火山噴火等災害時での有効性がこのとき証明された。

去年即位した天皇陛下の即位パレードが、明後日予定通り東京で行われるそうだ。

交通機動隊の何人かは、その警備に招集され上京している。

天皇即位に関しては去年の一連の事件を思い出す、京都御所・伊勢神宮でロボット兵

器と戦った。

地上戦だったためにエアロバイク運用の場は少なかったが、今後同様のテロ行為があれば、ロボット兵器と空中戦を演じることが有るかもしれない。

頭上に高く昇った陽光が春霞を消し去ろうとしている、蒼々と重なる山塊の輪郭が一層明瞭になる。

NHKニュースに被さるように、本部から連絡が入った。

右掌のコントロールスティックを操作して大きく旋回する。出動中の全隊員に対する緊急の帰庁命令だった。

「―――あら！秋山君じゃない！お久しぶり。」

背後から滑舌のハッキリした女性の声が掛かった。

「ああっ！黒木警部、ご無沙汰しています。」

「天ヶ瀬ダム事故以来よね、広島県警に異動になったことは訊いてたけど、白バイ乗ってるの？」

「―――いえ、エアロバイクの専任を言い渡されました。」

「あなた、高い所苦手じゃなかった？早く白バイ乗務に戻りたいって、あの時云ってたじゃない？」

「もう慣れました、広島の交通機動隊もエアロバイクは初めての導入で・・・半分教官みたいなことやっています。」

「―――凄いじゃない！本格的に事件や事故に運用したのは、天ヶ瀬ダムが初めてだろうから、あなたパイオニアの一人よね！」

照れ臭そうに7分刈りの頭を搔く。

京都府警から、玲子と笑子の刑事カップルが近々着任することは、様々なルートから伝え聞いていた。

なにせこの二人、今を時めく警察庁配下のスーパースターである。

公認のLGBTカップルという身上の特殊性に加え、東京・大分・福岡・京都・北海道で担当・解決した事件の重要性・特異性に鑑み、各県警本部・所轄署に於いて本部長・署長の名前は知らぬとも、このカップルの名前を知らぬ者はいない程の存在になっていた。

「お仲間の、白河刑事・・・でしたか、今日は？」

「彼女は今、刑事部屋で着任の書類作成中、私達今日着任したの。」

「それともう一人、物凄い球を投げる黒人の・・・。」

「ジョン・クアリね、彼はまだ京都府警で新人刑事研修の最終段階、来週修了して、広島県警に着任予定よ。」

所轄署長及び県警本部各セクションの責任者が大会議室に集められている。

本部長と総務部長・警備部長が緊張した面持ちで、会議室に入ってきた。

演壇のマイクを引き寄せながら、県警本部長が徐に口を開く。

「―――公務中に緊急に集まって貰って申し訳ない、警察庁から重大な連絡が入った。」

まだ若い、キャリア官僚の口が僅かに震えている。

「これから話すことは、明日正午まで他言無用、緘口令を敷く。家族・親族にも一切明

かしてはならない・・・。」

「———気象庁は、明日正午に南海トラフ巨大地震に関する臨時情報（巨大地震注意）を発表する。」

会議室内をざわめきが走る。

「中央防災会議は、ここ数か月のプレート境界面におけるスロースリップの観測結果、及びそれに伴うひずみの開放に関して評価検討してきた。特に3か月前の大山噴火を重視しているようだ。深部プレート境界面の圧力低下が大山噴火の一因と考えている。」

「スロースリップは臨時情報キーワードのうちの（巨大地震注意）に相当する。周知のとおり臨時情報の有効期間は一週間、一週間経過したのち地震が起きなかった場合でも、再度同様に観測・評価された場合、再び臨時情報が発表される。」

「発表後の市民の不安感は計り知れない、これまでの常識で想定し得ない異常な行動に走る可能性もある。各セクション、各所轄署スタッフ、全職員連絡を密にし、協力し合って治安を維持してほしい。警備の詳細はこれより警備部長から説明する。」



その夜から県警全スタッフは非常警備態勢に入った。

非番・休暇中の職員が緊急に招集される、主要行政機関・社会インフラ供給拠点・学校・病院・港湾施設・主要工場・市場・巨大ショッピングセンター・空港・主要駅・インターチェンジ等交通トランジットポイント・広島市・呉市・福山市・東広島市・尾道市・三原市・廿日市市・三次市・府中市・庄原市等、都市中心部への警備スタッフの配置が、その夜の内に完了した。

朝露が、紅い石州瓦を白く覆う厳しい冷え込みも漸く終わりを告げ、太陽が顔を出せば万物の体温が一気に上昇するこの季節・・・勇躍と活動し始める人々の明るい表情が、この日の正午を持って不安に暗転した。

内閣総理大臣の緊急会見が、TV全局、インターネットニュース等によりLIVE中継された。

まず人々が集まり始めたのは、ガソリンスタンドである。

車の主力は今の時代もまだハイブリッド車だ。

前出の全固体電池によるピュアEVの普及に重いブレーキを掛けたのは、アメリカ

のシェールオイルだ。

再生可能エネルギーによる充電のみではまだまだ非力だった、シェールオイルによる原油価格の安定が、ピュアEVへの迅速な転換を阻害した。

災害に対し何を準備するにしても、最も重要なのは移動・運搬手段である。

ガソリンハイブリッド車が災害時人々の生命線だった！

但し、配置された警備スタッフによって、一回の給油量が30Lに制限される。

越権行為と警察に詰め寄る市民もいるが、臨時情報発表時の政府ガイドラインに基づく規制との説明に、渋々従う。

家族との連絡の為に携帯電話が繋がりにくくなる、固定電話も同様だった。

繰り返される災害の教訓から、SNSや災害用伝言板の利用も考えられたが、未だ発災前である、各電話会社も災害発生時同様の対応は出来ない。

南海トラフ巨大地震臨時情報下では、地震に備えつつ通常の社会活動をできるだけ維持してゆくことが求められる。

従って交通機関の運休、学校の休校、病院の休院、工場・オフィス等企業の休業、小売り店舗の閉店、公共サービスの休止、社会インフラの休止等はありません。

然るに正午の臨時ニュースを聞いた直後から、日本社会は異常な方向に動き始めた。多くの企業がその日の就業時間を繰り上げ、多くのサラリーマンが一週間程度の有給休暇を取得した。

子供たちに学校を休ませ、細君も女子会やアルバイトをキャンセルし、つまりは家族全員一週間を同じ場所で過ごせるように努めたのである。

当然のように食料品・日用品の買いあさりが始まる、この日の夕刻にかけて広島県下最大のショッピングモールへの道路は、異常な渋滞が続いていた。

広島駅上空をゆっくり南下する、16両の新幹線編成が長い姿態を駅ホームに滑り込ませている。

何やら、街全体が酷く不安げに見えるのは、気のせいだろうか？

広島デルタ南端の宇品港から無数の漁船が出航し始めている。

朝のニュースによると、西日本の太平洋側、及び瀬戸内海周辺の小型漁船は、殆どが所属の漁協を通じて、日本海側の漁港へ廻航されるのだそうだ。

勿論、津波を避けての行動だ。

宇品港から海沿いを南東に、呉に向かう。

海上自衛隊呉基地の上空、“アレイからすこじま”にはいつものように数隻の潜水艦が、黒くて細長い船体を横付けしている。

いや、今日はいつもと多少違う・・・桟橋には無数のアルミトラックが一行に並べられ、その周りで白い作業服が忙しそうに動き回っている。

黄色い布に包まれた何かを、ひとつ々慎重に抱え上げ、潜水艦のハッチから船内に運び込んでいるようだ。

大型のものは同様に、桟橋の更に先に停泊した大型の護衛艦に、クレーンで次々積み込まれている・・・明らかに自衛隊員とは違う、別の機関の営みだ。

コントロールパネルのモニターをズームする。

白い作業服の背中に“文化庁”と書かれたロゴが眼に飛び込んできた。



西の空が茜色に染まり、瀬戸内の夕凧が下界の喧騒を包み込む。

鏡のような水面を行き交う渡船の灯りが瞬き始めると、やがて夜の帳が辺りを被う。

警備の要はこれからである。

海岸沿いに更に南下し、音戸の瀬戸から江田島上空を経て、暗い海上を厳島へと渡る。

凧いだ入り江の先に広島デルタの街の灯りが、煌々として煌びやかだ。

弥山の頂上を掠め、ライトアップされた厳島神社の朱の鳥居を目指したその直後・・・

・眼下の灯りが俄かに明滅して消えてゆく！宮島口の港が漆黒の闇に替わる・・・一体何があった？

暫らくして北へ振り返ると、同じように夜の闇に沈んでいた広島デルタの周辺から、淡い光が戻ってきた。

全固体リチウム電池の普及は、住宅のエネルギー事情にも革命をもたらした。

昼間、ソーラーパネルで発電した再生可能エネルギーで、全固体電池を充電する。

晴天が続けば、電力会社からの受電を殆ど必要としない、多くの家庭が大手電力会社との契約を解除し、自前の電力で暮らすようになっていた。

勿論、雨が続けばソーラーパネルでは発電できない。

既存の送電システムがこんな時に役に立つ、スマートグリッドとして電気を補完し合うのである。

大手電力会社も今やその事業者メンバーのひとつに過ぎない、スマートグリッドに対して或る時は電力を供給し、或る時は消費し、また或る時は電力を蓄電する、スマートグリッドメンバーは規模の大小の差はあれ、発電及び蓄電設備を自ら所有し、お互いを補完する。

最近、その発電システムに再革命が起きつつある。

ソーラーパネルに替わって、安定核原子力発電が徐々に普及している。

安定核原子炉は、燃料廃棄物としての放射性物質を一切生成しない夢の原子炉だ。

自家用原子炉で発電すれば、ソーラーパネルと違いその日の天候に左右されることがない。

4人家族でほゞ30年間、燃料サプライフリーそしてメンテナンスフリーである。

一般家庭や小規模事業者のエネルギーコストが限りなくゼロに近づく。

唯一、核兵器として利用されかねない不安から、政府は普及に一定の規制をかけてはいるが、市場の圧倒的な圧力には抗しようもない、今宵息を吹き返しつつある地上の灯りの一部は、新しい原子の光なのかも知れない。

安定核原子炉がなぜ放射性廃棄物を出さないか・・・簡単に云うと、完全燃焼（完全核分裂）させるためだ。

通常は核分裂を起さない安定核に、外部から強いエネルギーを印加し無理やり分裂させる。

放射能を持つ不安定核を連続して何回も分裂させ、それ以上分裂できないニッケルや鉄のような安定核になるまで核分裂を繰り返す、そう云うことらしい。

今までの、危険極まりない巨大な原子力発電施設は、一体何だったんだろうか——この瞬間も、福島では複数の商業原子炉の解体作業が継続されている。

JR宮島口駅の上空でUターンし、再び海に出る。

暗い海上を航行する大型船の船尾に、見覚えのある3色旗がはためく、白・青・赤の横ストライプ、ロシア国旗だ。

そう云えばロシアは、5年前にカムチャツカ沖合の超巨大地震に見舞われ、千島列島を含む極東の多くの地域が壊滅状態となった。

カムチャツカ半島の付け根が水没し、カムチャツカ島になり果てたのである。

全個体リチウム電池の普及により、化石燃料から再生可能エネルギーへの転換が急速に進み、石油や天然ガスの原料輸出が頼りのロシア経済には、被災地を復興させる余力はなかった。

この年、累積債務（赤字国債）の償還を完了した日本政府に支援を求めたのである。

シベリアと切り離されたカムチャツカ島、及び千島列島全島を租借地として、その施政権を無償譲渡するという。

領有権、領海権はそのままロシアが保有するため、日本国内の反対論も根強かったが、新しい市場と労働力を求める国内産業界の求めに応じ、日本政府は一年後、ロシアとの協定に調印した。

図らずも、長年両国間の懸案であった北方領土問題が、この協定により解決された。

ロシア政府からすれば施政権を譲渡しても、領有権と領海権を維持する限り極東海域における地政学的なプレゼンスに於いて、大きな支障はなかった。

かくしてカムチャツカ島と千島列島の復興の責任は、日本政府に課されることとなる。

我国は太古の昔から、幾度となく大陸進出を目論み、その都度大きく挫折して四つの島に逃げ帰る歴史を繰り返している。

今回もその轍か！・・・多くの知識人が未来を憂うコメントを寄せたが、その中にこのような主張もあった。

「——日本人は、この四つの島を捨て、天皇をカムチャツカに御移し申す勇気を持って！」



秋山は広島湾を北上し、江波の三菱重工上空を經由して舟入本町、平和記念公園、ライトアップされた原爆ドームを見下ろしながら、広島市中心部紙屋町交差点に達した辺りで大きく旋回する。

暗い空に円を描きながら、ボンヤリとした意識の下、黄色い布に包まれた何かが、海上自衛隊呉基地で潜水艦に積み込まれていたことを思い出した。

そう云えば政府は、南海トラフ地震の臨時情報が出された場合の、国宝・重要文化財の措置について、何らガイドラインも示していない。

積み込んでいた職員の作業服には、文化庁のロゴがあったが・・・。

もしかすると、国宝を海外に移送しているんじゃないか！

カムチャツカ島に於ける最初の拠点として、日本政府は港町のオゼルノフスキーに広大な石油備蓄基地と、倉庫群を建設した。

今は海上自衛隊が管理している。

震災復興の為の物資集積基地と説明されているが、日本本土の国宝・重要文化財の退避場なのかもしれない。

今秋山を包み込む上空の大気には、幼い記憶の宵の涼やかさなど微塵も感じられない・・・温暖化のせいかも知れぬ。

温暖化と云えば、日本がロシアと協定を結んだ直後、アメリカの或る研究機関から特異な提案がなされた。

カムチャツカ島及び千島列島の幾つかの火山を、人工的に噴火させ、大気中のエアロゾルを増やして、太陽光を遮断し温暖化にブレーキを掛けるというものだった。

シェールオイル掘削の技術を応用し、火山のマグマ溜りの近くに大量の水を圧入すると、周辺の岩盤に無数のクラックが発生して、マグマ溜りの相対的な圧力が下がり溶け込んだ火山ガスが発泡する。

同時に山頂から垂直ボーリングを行えば、制御された人工噴火を誘発できるという。

カムチャツカ島・千島列島は世界的に見ても、火山の密度に比して居住人口が少なく人工噴火には理想的な環境だ、日本政府は施政権を行使し、早急に地域住民を北海道に移

すべきだ・・・。

長い目で見れば、現在の温暖化は氷河期が間氷期から氷期に移行する寒冷化の中の、人類の産業活動に伴う短期間の温暖化に過ぎない。

噴火によって、成層圏のエアロゾルを通常の10%程度増加させ、それを50年間継続させれば地球環境は本来の寒冷化の流れに戻る、ホワイトハウスの支持も取り付けていると云う。

2019年にパリ協定を脱退したホワイトハウスが何を今さら・・・我国世論の大勢は暗にアメリカの身勝手さを批判するものだった。

暑いのも嫌だが寒いのも困る・・・秋山個人としてはそう思う。

ヘッドセットから緊急の通報が入った。

出発地点のショッピングモールで、商品の奪い合いで騒乱が起きているという。

「――些細なことで！」

右掌のコントロールスティックを倒して、秋山は現地に向かった。

ショッピングモール東端の、食料品ゾーンの周りで、群衆が蠢いている。
建物のトッライト越しに内部を覗き込むと、店舗内も人の群れで溢れ返っているよ
うだ。
殆どの日用品は、市場流通の大量生産品を購入しなくとも、自宅で3Dプリンターによ
って製造できる時代になったが、流石に食料品だけは――。
プロテインパウダーや、セルロースファイバー、コーンスターチから、肉や野菜、穀物
に類似した食品は作れるのだが、口に入れるものはやはり本物を求めるのが人情だ。
この夜もそういった市民たちの自然な欲求が、夜のショッピングセンターの食品テナン
トのスタッフに向けられていた。
屋上駐車場の一角にエアロバイクを着陸させ、集まった群衆を宥めに階下に降りる、
交通機動隊の制服を見るなり十数人の買い物客が集まってきた。
「――皆さん落ち着いて、如何したんですか？」
「何とか言ってやってくださいよお巡りさん！何も売ってくれないんだから！」
健康そうなボリュームのおばさんが、声を荒げる。
「――うちはね、3世代10人家族なんだからね！」
人垣をかき分け、売り場に進入してテナントのスタッフに掛け合う。
「販売を停止して、商品を撤収するよう本部からの指令なんですよ！」
「如何して売っちゃいけないんですか？」
「分かりません！兎に角、今はキャッシュより現物の方が重要なんだって……。」
食料品の不売事象は、最近頻繁に発生している。
生産農家が農産物を商品として流通に乗せたがらないのだ。
多品種少量生産を旨とし、多くを家族や近親で消費する……家庭菜園の拡大版といっ
ていいほど、農業の産業構造が変化しつつあった。
野菜や米、穀物・果実に限ったことでは無い、食肉・乳製品・水産・食品加工……市
場における消費者の優越的立場は逆転し、今や流通は供給者の都合に支配されている。
少なくとも食料品に関しては、通貨がその価値を失いつつあった。



テナントスタッフの表情に、抗しがたい使命感を感じ取った秋山は、通路の隅に館内放

送のブースを見付けて飛び込んだ、「――ご来店の皆様、広島県警交通機動隊の治安維持スタッフです！大変恐縮ではありますが、このゾーンでの食料品の販売は不可能のようです。」

エ～！という絶望の声と、どうしてだ！という憤慨が交錯する。

「供給者から回収の要望が出されているようです。ここに在る食料品は商品ではなく、従ってその安全性に関して担保出来ないという話しです。」

「――ここに在る全ての食品がか？どうしてそんな物を並べているんだ！」

「詳細は不明ですが、生産過程での瑕疵かも知れません。何れにせよ供給者から販売できない旨通知されているようですので、悪しからずご帰宅ください。」

「――地震の前に食べ物を買えないんじゃ一体如何すればいいんだよ！」

「プロテインパウダーやコーンスターチ、セルロースファイバーは此処ではなく原材料ゾーンのプリンターコーナーで販売を継続しているようです。今は、巨大地震の臨時情報が発表されている非常事態です。どうかご自身の生命を維持する為の、タンパク質・カロリー・脂質・ビタミン等をご自身で準備してください、ダウンロードされたマニュアルに従って、3Dプリンターを稼働させれば、肉や野菜、パンや麺類に酷似した食料が得られる筈です、プリントアウトに必要な水・エネルギーに関しては、再生水やスマートグリッドから供給を受けてください。今や皆さんは、公助に頼らなくともご自身の力だけで大抵の災害を乗り切れる筈です！」

確かにそうだった、災害に伴う避難所や仮設住宅は、今や存在しない。

居宅が破壊された被災者は、保険会社が準備するトレーラーハウスに転居する。

それ以外の市民も、インフラが一切遮断された状態でも、自宅で最低限の生活を維持する手段を確保している。

水は雨水や浄化再生水を利用し、食料は原材料パウダー(トナー)のストックから、3Dプリントアウトで製造する。

最悪、排泄有機物から原材料パウダーを再生することもできる。

日用品は、既存品を分別粉砕して原材料パウダー化、食料品同様3Dプリンターで何度も再生製造できる。

3Dプリンターを稼働させる為の電気も、かつては巨大電力会社が所有していた送電網を、スマートグリッド化して共有、住宅のソーラーパネル、工場の発電設備、企業のメガソーラー、再生可能エネルギー発電所から供給を受け、必要な消費ポイントに配電、又は全個体リチウム電池に蓄電する。

そのスマートグリッドシステムに、安定核原子力発電が加わろうとしている。

今や人類は、絶海の孤島にただ一人だけで何年も暮らすことも可能になっている。

「日本国民は、最早日本国がなくとも自前で充分生きていける！」

と、ある番組の著名キャスターが宣言して多くの批判を浴びたのは、つい2年前のことである。

国民が自分と家族の為だけに活動し、社会に対して生産も消費もしなくなれば、当然に税収もなくなる。

5年前に累積債務（赤字国債）の償還を完了させた背景には、政府に税収減に対する強い危機感があったからだ。

国内債務として、それまではそれほど積極的に取り組まなかった累積債務に対し、ある時点から膨大な予算を投入して償還に努めた。

原資となる税収を増大させるため、政府は一つの禁じ手を発動した。

個人の納税額、及び納税率（任意の納税を含む、収入に対する納税額の割合）によって、個人が得られる行政サービスにグレードをつけたのである。

当然、憲法で保障される基本的人権に差別はできない、権利に差別はできないが差別しない状態でのグレードを認める。

つまり、高額納税者や高納税率者は政府主催のイベント等（例：桜を見る会）に優先的に招待される。

叙勲・表彰に関する優遇、一般参賀・宮中晩さん会への招待、宮内庁管轄の施設見学等での優遇、各省庁管理施設の見学等での優遇、各省庁窓口業務での優先処理、政府刊行物の優先配布、外交イベントへの優先招待、政府主催スポーツイベント観閲優待、自衛隊イベント観閲優待、等々である。

コンサート会場でのA席かS席か、JR指定席の一般席かグランクラスか程度のグレード差別ではあったが、税収増に絶大な効果があった。

特に宮内庁関連のイベントに関しては大いなる反響を呼び、老後の預金を切り崩してまで任意で納税する高齢者が増えたのである。

当初は不公平だとか、機会均等を害するとか云った批判の声も多かったが、納税による優遇はサービスのグレードのみで、他一切の金銭的優遇を認めなかったため、税収の増加とともに批判の声も沈静化していった。

事実、赤字国債償還後政府は満を持して減税に踏み切ったが、税収は減少するどころか今も増加し続けているのである。

脱税や節税といった言葉が、世間から忘れ去られた。

納税すればより優良な公的サービスが受けられる、高額納税に対する個人の競争心もメンタルな背景に存在した。

とは云うものの、税収が増えた最大の理由は、税金そのものの価値の低下にある。各国政府や中央銀行が発行する紙幣や通貨が、必ずしも生活に必須のアイテムになり得ない、経済活動の目的が単なる金融上の営利から乖離しつつあった。



不服そうな表情でショッピングモールのエントランスから、駐車場の方向へ散開する群衆の流れを見守りながら、秋山はエアロバイクを離陸させた。

広大な駐車場に、帰路を急ぐテールランプが紅く連なって、人々の不満を象徴しているようだ。

明日もまたこんなことが繰り返されるのだろうか・・・。

釈然としない内心を抑えながら更に上昇する、銀色の満月が夜の雲海を煌々と照らしていた。

東の空の遙か先が少しづつ輝いてくる、満月の清廉とした冷たさとは対極の、人を内腔から温める頼もしさを持つ光だ。

暖かい陽光と共に、温かい大気が空気の塊となって秋山の全身を包み込んだ――いや違う！何だか尋常な朝じゃない！

空気の塊は遥かに暴力的で、安定していたエアロバイクの挙動を、俄かに阻害しながら繰り返し襲ってくる。

慌ててコントロールスティックを操作しながら姿勢を戻す。

――地震か！地震の衝撃波か？

高度を落とし雲の下に出て地上に目を凝らす、何事も無かったように何時もの街の夜が拡がっている。

深夜放送の民放ラジオの声色が急に変わった。

「――少々お待ちください、何かあったようです！」

「――地震じゃない！地震じゃない！」

背後でディレクターと思しき声が錯綜する。

「あちこちで大きな爆発音があったようですが、詳細は不明です――！」

ホワイトノイズがしばらく続いて、慌てふためいたアナウンサーの声が戻ってきた。

「――**AP**通信緊急電によると、北アメリカ中央部で巨大火山噴火発生！現場はイ

エローストーン！繰り返します、噴火はイエローストーン！」

再びディレクターの声が重なった後、「ラジオプレスより緊急電！先程、全国で観測された爆発音は、米国中央部での火山噴火に伴うもの・・・イエローストーンカルデラの破局的噴火に伴うもの！」

「――ああっ、アメリカがなくなる！」

ディレクターの悲痛な大声が、秋山のヘッドセットを覆い尽くした。

―――続く。

以上、内容は全てフィクションであり、実在の個人・団体等とは一切の関係はありません、悪しからずご了承ください。

尚、添付した写真等は“PhotoAC”より転載させて頂きました。

当プラットフォームが、9月30日をもって閉店し、11月30日でログイン機能を停止する旨インフォメーションされていましたが、個人的なサイトに退避すべく準備を進めていたが、また別の管理者にて継続運営されるとの報を受け、配信を再開させて頂きます。

以前同様、ご来訪ご愛読宜しくお願いいたします。

新運営会社であります、デザインエッグ様、どうか安定した運営を宜しくお願いいたします。

―――佐田社長様頑張ってください！

南海部 覚悟

あめりかの憂鬱

<http://p.booklog.jp/book/128157>

著者：南海部 覚悟

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/tumanaya/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/128157>

電子書籍プラットフォーム：パプー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：デザインエッグ株式会社